

「なくそう！子どもの貧困」全国ネットワーク世話人会

「なくそう！子どもの貧困」全国ネットワーク世話人会では、3月の一斉休校時に「食の保障」がなされるよう、緊急アンケート「どうしてですか？ 休校時の子どもの昼ごはん」を3月6日～25日に実施しました。首都圏にくわえ、岩手県、大阪府、香川県、沖縄県から、声を寄せてくださったみなさま、ありがとうございました。

アンケートの自由記述の中から、休校時の昼ごはんをめぐる子どもや保護者の困りごとや、子どもの昼ごはんの対応・支援について、一部ご紹介します。

.....

◆昼ごはんをめぐる子どもや保護者の困りごと

子どもの昼ごはんのための費用を用立てられない、お弁当づくりのための家事負担がたいへん、カップ麺や炭水化物に偏る栄養面での心配、子どもがひとりで留守番することやひきこもったままであることへの不安など、深刻な声が寄せられました。

- ・生活保護世帯の方は、3月のお昼ご飯の費用を予定していなかったため、お昼ご飯のお金がないと、子どもにはっきり言い渡した家族もあります。言われた子どもは、固まって何も言えず、下を向いてしまいました。
- ・給食のおかげで、昼食代が安く済んでいたんだと改めて実感します。忙しくて弁当が準備できない日にコンビニで買うようにお金を渡すなどしていると、いちいちかなりの金額が必要なのです。長期化するとかなり家計に響きます。
- ・給食があれば栄養面も考えられているが、家ではつついおにぎりや麺類など、炭水化物に偏りがちになる。
- ・例えばテレワークなど在宅勤務をしている最中に子どもの昼食を用意しなければならない。昼休みの時間に準備して食べさせて片付けをできるとでも思っているのかしら？ また、子どもだけで長時間留守番させることを不安に思わない保護者はいるのでしょうか？ 留守番させればいい。在宅勤務すればいい。簡単に考えすぎると思います。給食は安くて栄養バランスがよくて子どもにとって1日の重要な食事です。国が子どもを健やかに育てていかなければならないのにそれを取り上げてしまうのは、育児放棄です。
- ・やる事が増えましたので、イライラが収まりません。まず朝に朝ごはんと昼ごはんの準備、下の子送迎、留守番してる間の家の環境や勉強の準備、それをしても家でずっとテレビやYouTube…帰宅すると家がぐちゃぐちゃ…もうこれがずっと続くのは無理です。

◆休校時の子どもの昼ごはんへの対応・支援を通じて

実家からのサポート、民間の配食サービスの利用、子どもによる自炊といった方法で、家庭でなんとか対応しているとの声が寄せられました。

同時に、学童保育で給食としてアルファ米とふりかけだけが提供されていることや、「閉まっては困る」との子どもの声を受けて通常通り運営する子ども食堂、子ども食堂にかわって米・乾麺・パン・野菜ジュース・おかし・バナナ・みかん・冷凍ハンバーグ・レトルト食品といった食料支援、給食休止で余ってしまい困っている卵を仕入れて配布しながら子どもや保護者の声を聞く子ども食堂関係者の取り組みも寄せられました。

支援者からは、以下のような声があがっています。

- ・今回の休校や給食がなくなることで困窮している家庭がこれほどいることに驚いている。
- ・利用する子どもはほぼ固定しています。シングルマザー、共働き夫婦、障害を持っている親。僭越ながら、もし当子ども食堂がなかったらどうしていたんだろう？と思いました。
- ・直接手渡しなので、こども食堂開催時だけでは聞けなかった色々な困りごとなどを聞くことができた。
- ・(食料配布を通じて) お一人お一人と話す機会が持てて有意義でした。また、個別に支援のご提案もさせて頂きました。
- ・どのご家族もありがたいとお礼を言われることはあっても、断られることはありません。予防的対応として「顔を見る」ということも含め、不安がっている子どもに安心を届けるという意味もあると思っています。
- ・配食が必要な子どもの情報が得られないので、見つけ出すことに苦労している。学校の先生とも連携はしているが、個人的なアプローチはなかなかしてもらえていない。

.....

新型コロナウイルス感染拡大が深刻化する中、新学期以降の学校の運営について検討がなされていますが、今回の緊急アンケートを通じて寄せられた声も参考にしながら、食をはじめとする子どもの生きる権利を保障するために、全国各地で子どもや保護者のために奮闘されているみなさまとともに、何ができるのか考えていきたいと思えます。